

来年度平成 31 年度は、改元が予定されています。平成は、「地平天成（地平かに天成る）」。「国の内外、天地とも平和が達成される」を基に決められたと報じられています。

来年度の 5 月 1 日には、この平成から、新しい元号へ。現在の<sup>きんじょう</sup>今上天皇陛下から、皇太子<sup>なるひと</sup>徳仁親王殿下へ御譲位され、日本国の象徴として、新しく御即位されます。

時代の大きな変わり目であります。また、同じく、来年度は、本市においても大きな変わり目となります。

昨年 4 月からスタートした、大野市政において初めての本格予算であり、大野市長が目指される「健やか、展やか、朗らか」を具現化していく予算がスタートします。

一般会計総額 203 億 8,800 万円、他会計を含め 441 億 2,894 万 6 千円。「新時代幕開け『プレミアム晴れ晴れ』予算」と銘打ち、今議会に上程されました。

我々議員は、黒部市にとって最大の課題である「人口減少時代への対応」について特に注目しこれまでの三月議会において慎重に審議を進めて参りました。

歳入においては、堅調な市民税の徴税見込みや地方交付税により一般財源は前年度並みを確保されているものの、合併効果の縮減による一般財源の減少やこれまで備えていた合併地域振興基金や公共施設維持補修基金の推移に注視が今後も必要であると認めています。

歳出においては、第二次総合振興計画の大型事業に位置付けられている「市民交流センター整備事業」と「道の駅整備事業」が来年度から、周辺整備事業や基本設計など本格的に着手されることから、市民の期待に応えるために、市の負担を減らしながら、市民の便益を高めていくことを求められます。

公共ストックマネジメントについては、ハコモノ、道路、橋梁など公共ストック全体について取り組まれるなど、将来負担を平準化し、持続可能な地域を目指していることも評価しております。

また、市民生活に直結する内容では、「高齢者ふれあい事業」や小規模老人クラブへの対応など市民ニーズに応える細やかな気配りがなされ、次世代育成では、「孫とおでかけ支援事業」や「すこやかくろべっこ誕生お祝い事業」など新規事業が計画されています。

さらに、「高校等入学支援金」や「高校生等奨学資金給付金の拡充」は、黒部市より多くの人材を輩出する一助となることが期待されます。

来年度は、「ももいろクローバーZ春の一大事」、「シアターオリムピックス2019」とこれまでにない規模の大型イベントも予定され、新しい時代をワクワクして迎えることも大きな特徴といえます。これらの開催を一時の効果とすることなく、これを契機にさらに黒部市、黒部市民が活性化していくための下支えも当局に大きく期待するところであります。

一方で歳出面における硬直化が大きな課題であると言わざるを得ません。

高齢人口の増加や子育て支援の拡充による扶助費の増高、病院や上下水道、牧場事業など特別会計、企業会計への繰出金の増加は、年次を追うごとに市の財政について硬直化を進める要因となります。

審議の過程で議論させて頂いたことを踏まえ、堅実な財政運営を進めるため、市民への丁寧な説明を通して、集中による集中を重視した事業選択を今後とも行っていくことを支持しております。

議員各位におかれましては、この主旨にご賛同頂き、是非とも、ご賛成頂きますようお願い申し上げます、賛成討論と致します。